



# アイヌタイムズ

## 第 69 号

2018 年 9 月 27 日 (木) アイヌ語ペンクラブ

アイヌタイムズ第 69 号(2018 年 9 月 27 日発行)からアイヌ語抜粋  
著者: 横山裕之

### パネタスム

(アイヌ イタク [アイヌ語])

「パネタスム」モトホ アナク「梅毒トレポネーマ」セコロ ア・イエ 細菌 ネ ルウエ ネ。ネ タスム クル トウラ オヤ クル オチウ ヤクン ネ ウタラ パネタスム クル ネ アン ペ ネルウエ ネ。"トレポネエマ" コロ メノコ ホンコロ ワ ヌワブ コロ ネ タスム ポホ コトウルセルウエ ネ。

イ・コトウルセ オカケ タ 1 週間 ワノ 13 週間 パクノ ウトウルケ タ ア・エウエン ヒ カアン ナンコロ。

ネ タスム オッタ イネ 段階 (病期) アン ルウエ ネ。

シネ 段階 (イ・コトウルセ オカケ タ 3 週間 ワノ 3 チュブ パクノ) シラン コロ: ア・チストウ ニノニク ルウエ ネ。6 週間 アン オカケ タ 梅毒検査 アニ 陽性反応 アン ルウエ ネ。

トウ 段階 (イ・コトウルセ オカケ タ 3 チュブ ワノ 3 パ パクノ) シラン コロ: ア・ネトパケ エピッタ リンパ節 フプ ワ、マウエコラン ワ、シンキ・アン ワ、オラ ア・キロウシケ アラカ ヒ カ アン ルウエ ネ。

ア・ネトパケ エピッタ クンネ フレ フプ アン ワ ケットカン ヒ (バラ疹) カ アン。

1 チュブ オカケ タ ネワアンペ イサム。コロカ 抗生物質 アニ ア・トウサレ カ ソモキ ヤクン ア・トウママ オルン 「トレポネー

### 梅毒

(日本語)

梅毒は、「梅毒トレポネーマ」という細菌によっておきます。

感染者との性行為によって起き、出生時の母子感染による先天性梅毒もあります。

感染後、約 1 週間から 13 週間で発症します。

梅毒は、4 つの段階(病期)に分けられます。

第 1 期(感染後 3 週間 - 3 か月)には、股の付け根のリンパ節が腫れ、6 週間を超えると梅毒検査で陽性反応が出るようになります。

第 2 期(感染後 3 か月 - 3 年)には、全身のリンパ節が腫れる他に、発熱、倦怠感、関節痛などの症状がでる場合があります。

全身に赤茶色の盛り上がった発疹(バラ疹)が現れることもあります。

これは、1 か月で消えます。

しかし、抗生物質で治療しないとトレポネーマは体内に残っています。

マ」オカ ルウエ ネ。

タネ 先進国 オッタ 抗生物質 ナ ピリカ  
クス タスム ウタラ ポロセレ 第3期 第4  
期 ネ アン クル モヨ ワ、アニ ライ クル  
カ モヨ ルウエ ネ。

1999 パ タ アシンノ 1200 万 パクノ ア・コ  
トウルセ ウタラ オカ クニ ア・ラム。

ネ 90% アッカリ アン ウタラ アナクネ、発  
展途上国 ウン ウタラ ネ ルウエ ネ。

1940年代 タ ペニシリン ピリカノ ア・エイワ  
ンケ オカケ タ、ネ タスム シノ モヨ ルウ  
エ ネ。

コロカ 2000 パ オカケ タ ウサ オカ モシ  
リ オッタ ネ タスム ポロ ルウエ ネ。

マウエカラ ワクチン イサム ワ、抗菌薬 ア  
ニ ア・ピリカレ ヤッカ 終生免疫 ア・コレ  
エアイカブ。スイ イ・コトウルセ ヒ カ アン  
ルウエ ネ。

日本 オッタ ネ タスム ウタラ アナク 2010  
パ ワノ ポロ ワ、2017 パ タ 5000 アッカ  
リ ウタラ オカ ルウエ ネ。テ パクノ ネ タ  
スム クル インネ パ アナクネ、1973 パ タ  
アン オカケ タ エアシリ アン ペ ネ ルウ  
エ ネ。

ネ 病原体 ア・ネットパケ ワノ サン アクス  
ナニ ライ ワ イサム ルウエ ネ。クス、ウネ  
ノ アン ア・オイペプ ア・エイワンケ ヤッ  
カ、ウネノ アン ア・ミブ ア・ミ ヤッカ、ウネ  
ノ アン 便座 ア・エイワンケ ヤッカ、ウトウ  
ラノ スサン ヤッカ、ランマノ イ・コトウルセ  
カ ソモ キ。

アメリカ ネノ、日本 オッタ ネ ヤッカ、2012  
パ タ、オッカヨ ウタラ ウコチウ クス コトウ  
ルセ ヒ アナクネ、テ パクノ イヨッタ ポロン  
ノ アン セコロ ア・イエ ルウエ ネ。

2012 パ ワノ 2016 パ パクノ、オッカヨ メ  
ノコ ウコチウ クス コトウルセ ヒ エクシコン  
ナ ポロ ルウエ ネ。

日本 オッタ、2006 パ ワノ 2010 パ パク  
ノ 700 タスム ウタラ パクノ オカ ヒケ、  
2011 パ タ 827 ウタラ、2014 パ タ 1661  
ウタラ、2017 パ タ 5770 ウタラ アン ルウ  
エ ネ。

ネ オルシペ アナク、先進国 オッタ 日本  
オッタ パテク ア・ヌレ ルウエ ネ。

現代、先進国では、抗生物質の発達により、  
第3期、第4期に進行することはほとんどなく、  
死亡する例はまれです。

梅毒は、1999年に新たに1200万人ほど感染  
したと考えられています。

その90%以上は発展途上国での感染です。

1940年代のペニシリンの普及以降、発症は劇  
的に減少しました。

しかし、2000年以降、多くの国々で感染率が  
増加しつつあります。

有効なワクチンは存在せず、抗菌薬の投与に  
より治癒しても終生免疫は得られず、再感染  
が起きることがあります。

日本における感染者は2010年頃より増加して  
いて、2017年に5,000人を超えましたが、これ  
は1973年以来44年ぶりでした。

この病原体は体外に排出されると急速に死ぬ  
ことから、日常生活における、食器や衣類の共  
有、トイレの便座、入浴からの感染は一般にな  
いと言われています。

アメリカのように、日本でも、2012年には男性  
同士の性交渉が原因と推測される感染例が最  
も多く報告されました。

2012～2016年にかけて報告されたデータから  
は、男女間の性交渉による感染が急激に増加  
していました。

日本では、2006～2010年に感染者が700名  
ほどであったものが、2011年には827名、2014  
年には1661名、2017年には5770名となっ  
ています。

この傾向は海外の先進国においては報告され  
ておらず国際的には特殊です。

オッカヨ タスム クル アナク 25 パ ワノ 29 パ パクノ ポロ ワ、メノコ タスム クル アナク 20 パ ワノ 24 パ パクノ ポロ ル ウェ ネ。  
男性は25～29歳、女性は20～24歳の感染者が多くなっています。

メノコ コトウルセ ワ ヌワプ アクス、ネ ポン ペ カ コトウルセ ヒ カ アン ルウエ ネ (先天性梅毒)。  
若い女性に感染が広がるのと同時に、「先天性梅毒」の赤ちゃんの出生も増加しました。

北海道 オッタ ネ ヤッカ、2010 パ パクノ ワノ ポロ ルウエ ネ。2006 パ ワノ 2010 パ パクノ 10 タスム ウタラ パクノ オカ ヒケ、2011 パ タ 21 ウタラ、2014 パ タ 58 ウタラ、2017 パ タ 110 ウタラ アン ルウエ ネ。  
北海道においても、2010年頃から増加しており、2006～2010年に感染者が10名ほどであったものが、2011年には21名、2014年には58名、2017年には110名となっています。

北海道 オッタ、オッカヨ アナク 30代、メノコ 20代 オッタ イヨッタ ネ タスム クル ポロ ルウエ ネ。  
また、北海道では男性は30歳代、女性は20歳代が最も多くなっています。

パネタスム ア・イサムカ クニ、ネイ ワ アラ キ ヤ カ ア・エランペウテク ウタラ トウライテキ オチウ ヤン。オラ コンドーム エイワンケ ヤン。  
梅毒の予防については、不特定多数との性行為の自粛、コンドームの着用が有効であると言われています。

ネワアンペ トウナシノ ア・パ ワ ア・トウサレ クニ プ ネ。  
また、予防、早期発見、早期治療が肝要と思います。

アイヌタイムズをご購入していただける方がお知り合いでいらっしゃいましたら、お声をかけていただくと大変うれしく思います。

購読連絡先: 〒055-0101 北海道平取町二風谷 80-25 萱野志朗(宛)  
購読料:1500円(4号ごと/アイヌ語版のみ)  
2300円(4号ごと/アイヌ語版と日本語版)

読者からの投稿募集:  
(連絡先): 〒047-0033  
浜田隆史(宛)  
北海道小樽市富岡 1-32-136  
電子メール: [otarunay@yahoo.co.jp](mailto:otarunay@yahoo.co.jp)  
ウェブページ: <https://otarunay.at-ninja.jp/taimuzu.html>

注)アイヌタイムズの著作権は、アイヌ語ペンクラブにあります。

注)1. 赤字は、アイヌ語です。  
2. 赤字のイタリック文字は、日本語由来のアイヌ語外来語です。